



火の柱

Friends of Jesus 2023.12 第 737 号

イエスの友五綱領

- ①イエスにありて敬虔なること
- ②貧しき者の友となりて労働を愛すること
- ③世界平和のため努力すること
- ④純潔なる生活を尊ぶこと
- ⑤社会奉仕を旨とすること

イエスの友会は、上の五綱領を、生き方の基盤としているキリスト者と賛同者の群れです。(結成1921年10月5日)

テーマ「神の恵み・信仰による救い」1p「機会を生かす恵の祈禱生涯」鈴木武仁 2p「戦争とキリスト教」小野島正彰 「救い主イエスの誕生」リリアン高島 「追悼 脇田眞一牧師を偲んで」高島史弘 3p「豊橋サマリア会20周年記念会」4p「春期聖修会のお知らせ」「会計報告 会員情報 支部報告」

機会を生かす恵みの祈禱生涯

イエスの友会会長 鈴木武仁



おいしい物を食べると、人にもそれを与えたいと思うのは自然の感情ではなからうか。信仰も同じで福音信仰を学ぶとそれを告げたくなくなり、聖書の言葉を誰かれとなく伝えたくなくなる。献身生活とは、本来そのようなものではないだろうか。

落胆とチャンス

聖書を学び、その深い隠された神秘のメッセージを解読し、それが現実にも有効に機能することを知らないとどんな妨害があっても伝えられなくなる。しかし、なかなか思うように伝えられないもどかしさがないわけでもない。相手にされず落胆する場合もある。期待はずれに終わることもある。これは多くの人が経験することである。それでも堪えながら水にパンを投げ続けるような伝道生活をする、徒勞のような働きがいかに尊厳をやりがて知ることになる。気前よく与えなさい。あとになって、与えたものが戻ってくるからです。持つてくるものを、人々に分け与えなさい。あとになってあなたも、人々から助けてもらうことになるからです。とソロモンの伝道の書(11:1)は教えている。そこで福音の伝道者は、パンを水に流すように、徒勞とは知りつつも、いつの日かの収穫を期待して生きるのだ。

この伝道者は、職業的専門家の伝道者ばかりでない。多くのみことばに動かさ

れた信徒伝道者もそれに含まれる。ビジネスマンの方が異教世界での働きには好都合の場合もある。牧師や宣教師では入れない異教世界に堂々と仕事で入って行け、福音を伝えることが出来るからだ。また飲食業で働く女性が、そこで出会ったお客を聖書の学びの会に誘うことも出来るからだ。こうして教会の祈り会にまで導き、信仰へと育てた人をわたしは多く知っている。もちろん話し方やアプローチの仕方はその相手によって異なるであらう。あせって痛い目にあったり、臆病になって救われた話を伝えられずにいるもどかしさを感じることもある。しかしチャンスはつかみ取らなければならぬのだ。

パウロはコロサイの信徒たちに送った手紙の結びで「目を覚まして感謝を込めて、ひたすら祈りなさい」(コロ4:1)と書いてある。この時、パウロは投獄に閉じ込められていたのである。みことばのために獄に入れられ、神の秘められた計画を告げ知らせるためにそうなっているのだと言うのである。よって、その神の計画が明らかとなり、しかもわかりやすく語れるように、与えられた機会を最大限に生かせるように適切に人々に接せられるように祈って欲しいと懇願している。

機会をとらえて生かす

福音を宣言し、それを聞いてもらうことがパウロの最大の関心事であった。そのためにただ二つのために祈った。機会が与えられること、そして機会をとらえることだ。そのために彼は準備した。とらえるためには備えがなければならぬ。

十六歳の時に渡米した賀川豊彦の愛弟子となった久保田憲三という牧師がいた。この人は太平洋戦争の最中、アリゾナ州の強制収容所に送られた日本人七五〇〇人のための傍らにいて祈り続けた。一九四二年より毎朝四時に起きて聖書を拝読し、祈り、瞑想の一時を過ごし、毎日午前五時半からのイエスの友会早天祈禱会を欠かすことなく続けられた。この祈りの中から、日本人の魂がキリストの福音で救われるようにとの示しを受け、全米の祈りの運動を始めたのである。

それだけではない。久保田牧師は、日本の教会が復興し、活発に勢いをもって伝道できるように日々祈る同志を募り実りのしるしとして、毎日一セントの献金をささげ、これを日本伝道のため、まずロスアンゼルス・イエスの友会会計のもとに集め、超教派伝道をしてもらった賀川豊彦先生に送って、日本の教会や牧師を助けるための「全米祈りの運動」を起し、祈禱会に参加する者の務めとされた。こうして、毎月賀川豊彦先生のもとに六〇〇ドル送り、これが七年半続いたそうである。この運動の参加者は二八〇〇名に達したのである。このように賀川豊彦先生の伝道の陰には、久保田憲三という協力者があったことを記憶しておくべきだ。

在米四十数年、この第二の故郷を後にして母国に戻られたのは六十歳の時。賀川先生は旅の疲れをいやしてあげたが、久保田牧師は伝道の手を休めず、「日本中がわが家」と日本の隅々まで放浪し、福音をのべ伝え、渾身の力を一杯の水を与える愛の奉仕を続けられた。賀川豊彦先生と米国の友人たちから贈られる援助で、二十数年間にわたって福音を伝えて村々、町々を歩き、多くの求道者が与えられた。賀川の愛弟子で松沢教会の長老だった牧

戦争とキリスト教

野仲造兄が「先生、お一人で淋しくありませんか」と尋ねると、先生は「主と共に歩いているので、少しも淋しくはありませんよ」と言われた。「病氣したらどうします」と重ねて尋ねると「イエス様、イエス様、といやされるように祈っておれば、いともいやされてきました」と。誠に神の恵みは測りがたい、機会をとらえたい祈禱生涯を私たちも継続したいものである。

小野島正彰



ヨーロッパで戦争が続いています。ロシアのウクライナ侵攻も二年目。

一部で戦闘が続き、世界のクリスチャンが、一日も早い戦争の終結を祈り、難民の支援を行っています。

一方、中東イスラエルでは、パレスチナ自治区ガザを統治しているハマスが、突如、十月七日の安息日に、数千発のミサイルをイスラエル国内に向けて発射し、ガザ周辺ではユダヤ人が殺害されて、約二百人のユダヤ人が人質になりました。これに対してイスラエル政府は、直ちに自衛権に基づきガザ地区に報復攻撃を行い、現在地上軍の侵攻が進んでいます。このため、子供を含め多くのパレスチナ人の犠牲者も出ています。破壊された建物や泣き叫ぶ人々など悲惨な光景が全世界で放送されています。

しかし、この二つの戦闘には宗教的に共通性があります。ウクライナとロシアは同じ「正教」です。また、イスラエルのユダヤ教、パレスチナのイスラム教、そして私たちキリスト教の神は、同一神です。同じ神を信じながら、その神の名によつて互いに戦争するのは、理にかないません。レビ記十九章十八節には「復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である」とあります。神の言葉は一体どこに行つたのでしょうか。また、国連は対策がなく機能不全に陥っています。むしろ、平和憲法に掲げる日本の世界平和に対する役割は大きいと思わされます。

さて、イエスの友会の五綱領の三番目に「世界平和のために努力すること」とあります。イエス様は、「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」（マタイ五・九）と山上の垂訓で語られました。また、「しかし、わたしの言葉を聞いているあなたがたに言っておく。敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしない。」（ルカ六・二十七）、「私があなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これが私の戒めである。」（ヨハネ十五・十二）とも語られています。

私たちは神の子とされなくても良いのでしようか、イエス様の御言葉を守らなくてよいのでしようか。世界平和のために、イエス様の御言葉に立つ以外に方法はないのです。イソップ童話の「北風と太陽」ではありませんが、シャローム・平和は冷たい力ではなく、暖かい神の愛による一致でこそ成就するのです。今、私たちの信仰が問われています。

パリサイ派のように人間的な考えや常識で判断してはならないのです。私たちは

目を覚まして神の御言葉を守る必要があります。平和はすぐに実現するものではありませんが、クリスチャンが祈りをもつて御言葉に従い、世界平和のために努力することが今ほど重要な時はありません。

フェリス・ナタル！

メリークリスマスマス！

救い主イエスの誕生

高島リリアン



12月25日、世界中のキリスト教徒が救い主イエスの誕生を祝います。メシアの到来を最も多く

告げた預言者の一人はイザヤでした。マタイ12章17節から20節には「イエスがイザヤ書42章1節から4節の預言を成就した」と書かれています。なぜなら、イエスは人々を、まるで少し触れただけで折れてしまう葦か、弱い火花を発する灯心のように、憐れみ深く人々を扱ったからです。これは、イエスが回復し、ゆるし、癒し、救いたいと願っている弱い人、失われた人々に対するイエスの愛を示しています。マタイは、安息日に食べるために麦を集めたり、人を癒したりしたイエスと弟子たちをパリサイ人が批判した後、そのことを言いました（マタイ12:1-14）。パリサイ人は非常に敬虔でした。彼らにとって、

イエスと弟子たちの行為は罪でした。しかしイエスは、パリサイ人たちが神の栄光に関心がないことを知っていました。彼らは私利私欲に基づいて行動し、困っている人に対しては容赦がありませんでした。パリサイ人は、宗教的儀式を遂行することで自分たちはすでに救われていると信じていました。そのため、彼らは誇り高く、他の人々のニーズに無関心でした。彼らは、イエスが罪人のために宗教活動ではできないことをするために生まれてきたことを理解していなかったため、イエスを拒絶しました。

パリサイ人たちと同じように、私も長い間、自分の宗教的行動によって神に受け入れられると信じていました。私は法律に従い、教会に通い、自分自身についてより良く感じるために多くの活動を行いました。私はプライドが高かったため、多くの場合、人々への憐れみを感じていませんでした。

私の理解では、私は善良な人間であり、神に受け入れられ、祝福されるに値する人物でした。このため、人生で困難な状況が起こり始めたとき、私は神に対して傷ついたと感じました。

しかし、神は私を見捨てませんでした。傷ついた葦を砕かず、くすぶる灯心の煙を消さない彼は、憐れみをもって私を助け、ゆるしてくれました。神は私の目を開いて、私のためにイエスがささげた犠牲の美しさを見せてくれて、私の心は感謝で満たされました。神に栄光あれ！私は恵みによって救われた罪人です。メリークリスマスマス！救い主イエスがお生まれになりました！ハレルヤ！

追悼

脇田眞一牧師を偲んで



敬愛する
脇田眞一牧
師が、去る
2023年
8月8日に
天に召され
た。享年8
7才でした。

いつも、大変穏やかな笑顔で、若輩の事務局の私に声をかけてくださったことを懐かしく思い出します。謙遜な祈りの人、誠実な信仰の勇者であつたと思います。イエスの友会の夏期聖修会が、大阪で開催されたときに、大阪のイエスの友会の参加者の少ないことを嘆いて、大阪でもつとイエスの友会を盛り上げていこうと声をあげてくださったのでした。そして、大阪支部長を引き受けてくださったって、大阪支部の集まりを、今年はじめにしたばかりでした。

脇田先生は、「癌サバイバーなんです」とは、大阪朝教会の仲間から聞いておりました。また、病気の治療をしていることは、本人からも聞いておりました。7月に腸閉塞で入院になったので、今年の夏期聖修会のご奉仕はできそうにないとの連絡もいただきました。その後、奥様と、何度も病院での様子を聞いて、祈りの課題をイエス友会の主だった方々に祈っていただきました。夏期聖修会の閉会礼拝の依頼を事務局からさせていただいていたのでした。主のご用をどこまでも受けて

くださっていたので、心残りであつたかと思ひます。

今、インターネットで脇田眞一を検索しますと「キリストとの出会いを伝えたい」2023年6月5日付けの証がキリストの幕屋のHPに掲載されているのが読めます。そこには、家族への遺訓として「キリストの道を歩むことが大事である」ということが書かれています。脇田先生の一本筋の通った信仰の姿勢がうかがわれます。そして、様々な教会の取り組みと共に、2つの大事にしたい事として、「こころの友伝道」と賀川豊彦先生の始められた「イエスの友会」を書いてくださっています。この脇田眞一牧師の思いをどうか受け継ぐ人を主が起してくださるよう、ご家族、ご友人の方々に主に慰めがありますように、祈ります。事務局 高島史弘

豊橋サマリア会20周年感謝会開かれる

イエスの友会で事務局長の任に当たっている高島史弘牧師は、豊橋で20年前、豊橋サマリア会を立ち上げ、路傍生活者への支援活動を始め、毎朝、豊橋駅前、路傍伝道を続けています。今年、20年目を迎えて、20周年記念感謝会を開き、50名余の方々が集まり、共に祝いしました。これまで、サマリア会の活動については、イエスの友会前事務局長であつた故小川忠夫師や前副会長故二村撰三さんなど多くの方々の支援がありました。最近では、ブラジル・ペルー・フィリピンなどの宣教師たちの支援も増えて、さらに活動の輪が広がっています。

サマリア会20年の歩み

1999年9月16日 夜、電車的人身事故に遭遇

1999年9月17日 早朝、名古屋駅で自殺を願うホームレスのおじさんと出会う。

1999年10月ごろ 豊橋駅で、キリスト教のトラクトを配っていたら3人のホームレスのおじさんと出会う。

そのうち一人は故清水進さん、週一回、豊橋駅で伝道、聖書の話をし、おにぎり、ジュースなどを渡す。この頃、ホームレスの方々への偏見と差別に向き合う。

2001年ころ スペイン語のクラスに通う傍ら、週二回、聖書の学びと給食をする。

2003年7月 ホームレスの仲間たちと、豊橋サマリア会を設立。ホームレス自立協力豊橋サマリア会として、豊橋市社会福祉協議会にボランティア団体登録をする。

2003年 他の教会のクリスマスチャンの方が初めて活動献金をくださった2005年7月 東京、山谷の森本春子牧師を招いてチャリティ講演会開催。

2005年8月 豊橋駅で朝5時から毎朝、ホームレスの仲間と祈りをする。このころ、会社退職時にあつた一千万円の貯金を使い果たし残額ほぼゼロになる。そうした中、浜名湖バイブルキャンプ場での集会で財布の残りをすべてを献金する。

2006年4月 一宮ハレルヤ恵ホームを開設、ここで毎朝5時からの祈

生活保護も受けず4名の

祈



48221